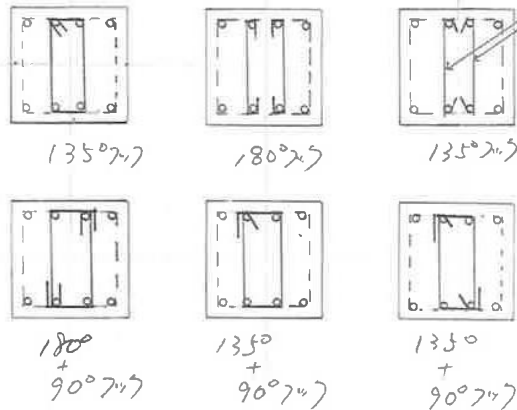


平成28年No.12 鉄筋コンクリート構造の配筋

1. 柱の副帯筋の端部フック → 余長部が帯筋で囲まれたコア内に挿入される場合は一端を90°フックとしても良い
2. 大梁主筋の継ぎ位置 → スパン中央部の下端は鉛直荷重時において曲げモーメントが大きくなるため継ぎを設けるべきではない
3. 大梁主筋のX形配筋 → せん断破壊や付着割裂破壊の防止に有効
4. 柱梁接合部のせん断補強筋比 → 0.2%以上必要

○ 柱の副帯筋の端部フック

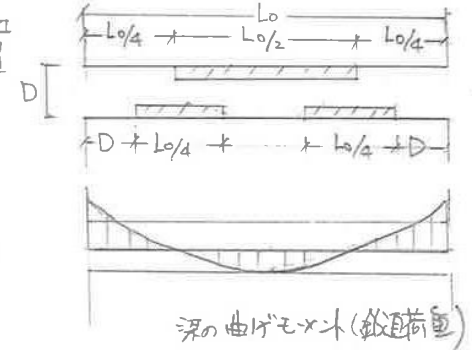
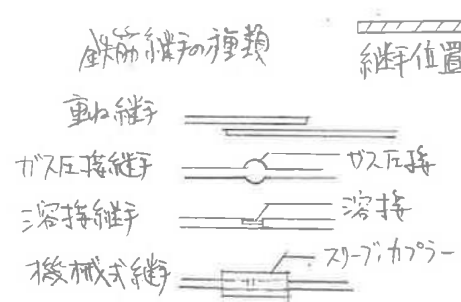
→ 帯筋と併用するせん断補強筋(帯筋は4でせん断耐力が足りた場合)



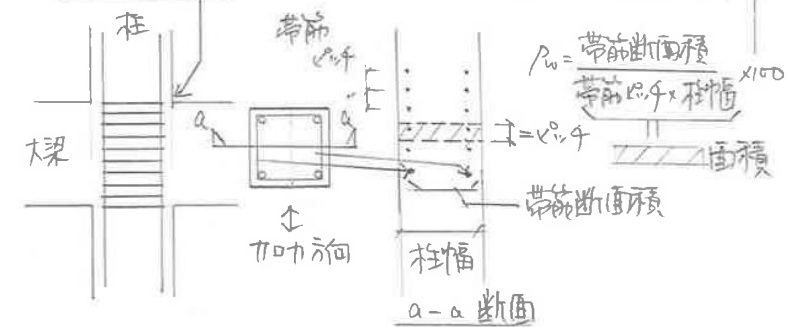
副帯筋
端部は原則180°又は135°フック

余長部が帯筋で囲まれた
コア内(コア内)に挿入
される場合は一端を余長8d以上
90°フックとしても良い

○ 大梁主筋の継ぎ位置 → 部材応力の小さい箇所に設ける



○ 柱梁接合部のせん断補強筋比(P_w) → 0.2%以上



○ 大梁主筋のX形配筋 → 梁主筋を部材端部で折り曲げてせん断補強と見做す方法

